

ということで今日もレッスンお疲れ様！

それじゃ早速だけど、3巻の本編で話しきれなかったことを中心に、ちょっとだけ補足説明をしていくわ。

■シンボルの重要性。

ある程度慣れてきたら、鎌やリーパーの要領で自分自身のシンボルマークを生み出していくのも良い方法ね。

これはどう役立つかというと、魔法使い入門11巻の真名のような使い方もできるわ。

自分自身をイメージしたマークというものは他者からのコントロールを防ぎ、心が迷った時にも自分自身を取り戻すきっかけとして使用できるわ。

この世界では社章や団体のシンボルマークなど、自分が属している組織マークを衣服などに半ば強制的につけられて無意識にその支配下にされたり、コントロールの影響を受けてしまうケースも多いからね。

こうしたケースに対しても君自身のシンボルマークは有効ね。

いくら変なマークを付けられても、君自身のシンボルマークさえ確立していれば、そうしたモノの悪影響や呪いにかかることはないからね。

こうしたマークは作り出すだけでも効果があるし、より強力なコントロールから脱したい時には体の表面にマークを浮かび上がらせれば更に効果的に精神防御が行えるわ。

■鎌による就寝時の防御

これは寝る時に鎌を空中に浮かび上がらせて、就寝時に守って貰うというテクニックね。

オートガードのようなイメージで寝ている場所に鎌を浮かせて警備させておけば安眠の確率も高まるというものよ。

■エリア制圧の技法

死神の鎌を利用したエリア制圧の技法は、これはエリア全体にスパイクを打ち込んで裁いているようなものだから、基本的にスパイクのルールと同じで後始末は考えなくて大丈夫よ。

■カウントダウン

あ、そうだ。

せっかくだから死神の鎌で面白いテクニックを1つ教えておくわね。

これを行うには、まずは死神の鎌が12本必要よ。

- ・12本用意したら、イメージの中でアナログ式の巨大なからくり時計を作り上げてみる。
- ・作り上げたら、時計の12の針の位置に合うように、12本の鎌を配置してみてね。
- ・鎌を配置したら、そのままカウントダウンをはじめるわ。
- ・1の位置にある鎌が、時計の針のように動いて2の位置の鎌へと重なり合体して、そのまま3の位置へと移動して重なってゆきカウントが進む…。

カウントが進むたびに鎌はどんどんと重なり収束して、厚みを増して強力になっていくわ。

そして鎌は4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11…と針を進めていって、最後に12へと辿り着き全ての鎌が合わさるの。

- ・その時に、時計の中心にあるからくり人形が出てくるんだけど、それに合わせて12の位置で重なりあった死神の鎌がからくり人形に向かって倒れてくるわ。そうね…まるで断罪のギロチンみたいな感じに。

で…からくり人形は、そのまま鎌に斬られるんだけど。

まあ言いたい事っていうか、このからくり人形の部分に何をあてればいいかは、君ならもうわかるわよね？

この鎌のカウントスピードは自由にできるから、時限爆弾のような使い方もできるし、即効性のあるものとしてサクッと行っても構わないわ。

■ジャッジメントアイについて

ジャッジメントアイは本編部分をテキストにしておいた方がわかりやすいとおもったから読んでおいてね。

「このジャッジメントアイは君自身がリーパーの目を持つようなもので、いわば瞳で見る行為そのものが「断罪」になっているわ。

これは「相手の罪を見極めて裁く」という一連の流れを「見る」という行為1つに集約するから、魔眼の力に近くなるわね。

ジャッジメントアイは瞳の強力な力を利用できるし、言葉を乗せればそれが強化されるから、君の行動を強化する增幅器的な使い方もできるわ。

この瞳で周囲を睨めば、それ自体が威嚇効果を持つし、俯瞰視で周囲を見おろすようにすれば空間全体に効果を与えるのも可能よ」

この瞳は本編でも話した通り、エネルギーの法則を理解した上でその詐術を見れば、その時点で力を打ち破ることが出来るわ。

こうした物理世界に生きていると「物事を見るだけで何が変わるのか?」って思うかもだけど、これは全く違う結果になるわよ。

例えばよく引き合いに出すけど手品とかもそうね。

不思議な手品を見ると人は驚くけど、もしも君がタネを知ってしまったら、同じ手品をもう二度と前と同じ感動で見ることは出来ないわ。

これって冷静に考えたら不思議よね？

だって、その手品自体には何一つ落ち度はないのに、君がそのタネを知るか知らないかで、君の手品に対する心の反応や目線、周囲にふりまく空気は全く違っちゃうんだからね。

これがもしも敵対している相手の場合だったら、そうした冷めた空気が会場全体に蔓延していたら、手品師はショー 자체を続けることが出来なくなるわ。

(これって実は凄い事よね)

これと同じで君は知識を知り、それを実感として理解することにより同じ事象に対しても全く違う解釈と答えを導き出すわ。

意識が変われば反応も変わるし、反応が変われば結果が変わるわ。

だから知識を知ることと見ることは大事だし、見破ることにはとてつもない力があるって事を深く理解した方がいいわね。

(これは魔眼持ちの存在ならより深く理解しやすい内容ね)

■ジャッジメントアイについて その2

これは相手を見るだけでも効果的な技だけど、目の前にいる相手を自分の目玉の中（裁判空間）に入れてそこで断罪する。と言うイメージもいいわね。
つまり眼球の中で相手を斬るってことね。

目の中で行うのが何となく嫌だったりリスクを感じる場合には、目の前に投影して裁きを行うといいわね。

■贖罪の目

これは「罪により邪悪な魂を焼け焦がす」というアメコミの某ダークヒーローが使うものと同じ名前の技だけど。

死神の贖罪の目は少し違うわ。

やり方は少し複雑になるわね。

- まずはジャッジメントアイで相手を見つめて。

(これはイメージの中の相手でもいいけど、出来れば実際に相手の瞳を見つめるのがベストね)

- そのまま相手の瞳の中にある怒りや惡意、罪の色を見据えたら、それを相手の頭蓋骨の中でグルグルと循環させてやるの。

具体的には相手の両目を靈的に塞ぐイメージね。

これはジャッジメントアイで相手の両目などのいわゆる「靈穴」を糸で縫い付けて開かないようにする感じね。

意識や念の出口を塞ぐことで自らの生み出す罪や悪しき感情を放出させることを封じて、その結果として悪意が頭の中で循環し内圧が高まり、悪しき意識の膨大な熱量で自らを内側から焼け焦がし発狂させて自滅させるって寸法ね。

言わばこれは君の力で相手を裁くというよりは、相手自身の罪や悪意の熱量で焼け焦げ、自滅させる技といったほうが表現としては正確かもね。

これは他者にストレスをぶつけたりイジメたりして厄を落としているタイプのクズや、自分の中に悪しき思考や意識が蔓延している者、ヘルクリエイターなど地獄を常に生み出している者相手には特に効果的よ。

そういった輩は自分の生み出した熱量で、自らを焼いて地獄を自分自身で浴びることになるわ。

この技はそいつが改心するまで、いつまでも頭の中の熱が逃げずに燃え続ける事になるわけだけど、これは技の構造上、自分を焼く悪意の内圧が無い（低い）普通の人相手には通用しない内容もあるわね。

※贖罪の目は場合によっては目だけでなく口や両耳、鼻の穴なども塞いでやるといいわ。

穴を塞げば塞ぐほどにそいつの内圧は自然と高まり自滅しやすくなるからね。

■天秤技法の応用

この天秤技法は基本的にはエネルギーのバランスをとる技法だけど、その性質ゆえに効果的で面白い応用もできるわ。

1：レトリーバル

例えばレトリーバルね。

過去の時間軸に戻って、自分が相手にされた嫌なことを思い出して、それに対して自分と相手を天秤にかけて奪われた力を取り返したり。

かつて誰かを応援したくても出来なかったことや、伝えたかったこと、告白したかったことが言えなかった時には、天秤を通して応援のエネルギーを送ったりと…自分の過去に対しても力の行使を行えるわ。

これは割とスッキリできる技法だから、何か過去にしこりがある場合にはおすすめね。

2：悪い癖を取りのぞく

これは特殊な応用技法ね。

例えばギャンブルやタバコ、女遊び、酒好きな肉親に困っているという人も、中にはいるかと思うけど。

そうした人のクセを操作して、上手くバランスをとる技法になるわ。

やり方は簡単よ。

- まずは対象とその人が依存しているクセ（対象）を思い浮かべるの。
例えば「父親」と「お酒」って感じね。
- それをそれぞれの天秤のお皿にのせて。
- 釣り合いを測るわ。
- この場合だと大抵…というかほぼ確実にお酒の方が重くなっているわ。
- これはお酒がその人の人生を食いつぶしすぎているというサインだから、それは良くないから、お酒の方にのっている死神金貨を摘んで、本人の方に移動させていくわ。
- 金貨を移動させ終えて釣り合いを取ったら、後は普通のやり方どおりにそのまま金貨をエネルギーとして定着させて、存在のバランスを確認した後、それを消して終了ね。

依存によって自分を駄目にして、周りに迷惑をかけてしまうケースはこの世界では多いからね。

この技法はそうしたモノへの変化のきっかけになったりするし、特に自分自身で直したいと思っていてもなかなかキッカケをつかめない悪癖に関しては効果を表しやすくなるわ。

ただしこれは当人自身がそれを好きでやめられない場合には効果が出にくい場合もあるし、逆に効果が出る時には体の不調が診断されたり、不倫が明るみに出るなどの大きな痛みを伴った変化になるケースもあるから、そのあたりは少しだけ注意ね。

ということで幾つか知識を補足したけど、特に死神の鎌やシンボルマーク、天秤に関しては応用がききやすい内容になるから、あたしが教えたこの知識を利用して、ぜひ君だけのオリジナルテクニックを見つけてみてね。